

消防消第291号
令和5年9月12日

各都道府県消防防災主管部長
東京消防庁・各指定都市消防長 } 殿

消防庁消防・救急課長
(公 印 省 略)

消防本部における定年引上げに伴う高齢期職員の活躍等のための対応状況調査結果について

日頃より、消防行政に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度から、地方公務員における定年が段階的に引き上げられ、消防本部における定年引上げに伴う高齢期職員の活躍等のための対応については、「「定年引上げに伴う消防本部の課題に関する研究会」報告書について」（令和4年11月25日消防庁消防・救急課事務連絡）等でお示しした対応及び留意点を参考に、取り組んでいただいていることと承知しております。

消防庁は、令和5年6月30日付「消防本部における定年引上げに伴う高齢期職員の活躍等のための対応状況調査について（依頼）」において、高齢期職員の活躍のための対応状況調査を実施し、今回、結果を取りまとめましたので、別添のとおりお知らせします。

貴職におかれては、特に検討している団体が多かった、現場業務に従事可能な職員の体力指標等の設定や軽量資機材の導入といった現場業務での高齢期職員の活躍維持に向けた取組、中長期的なキャリア形成への取組、消防力の維持に必要な定員の見直しについて検討する際に、これを御参照の上、実施に向けた準備を進めていただくようお願いいたします。

各都道府県消防防災主管部（局）におかれましては、貴都道府県内の各消防本部（消防の事務を処理する一部事務組合及び広域連合を含む。）に対して、この旨周知されるようお願いいたします。

消防庁消防・救急課
職員第二係 田邊・松本・坂口
TEL：03-5253-7522
FAX：03-5253-7532
E-mail：shokuin@soumu.go.jp

消防本部における定年引き上げに伴う高齢期職員の活躍のための対応状況調査結果

(令和5年7月1日現在)

調査対象消防本部数	722 本部
-----------	--------

1 高齢期職員の活躍促進について

【問1 現場業務での高齢期職員の活躍維持に向けた取組】

(1) 体力維持プログラムの策定状況

回 答	消防本部数 (N=722)	割合
策定済	62	8.6%
策定を検討中	179	24.8%
策定予定はない	481	66.6%

(2) 上記(1)で「策定済」と回答した場合の運用開始時期について

回 答	消防本部数 (N=62)
令和3年6月以前 (※改正地方公務員法公布以前)	45
令和3年7月～令和5年3月	10
令和5年4月以降 (※定年引き上げ制度開始以降)	7

(3) 現場業務に従事可能な職員の体力・健康・技術に係る基準の設定状況

回 答	消防本部数 (N=722)	割合
設定済	8	1.1%
設定を検討中	161	22.3%
設定予定はない	553	76.6%

(4) 上記(3)で「策定済」と回答した場合の具体的な内容について (以下、一部抜粋)

【別添】のとおり、体力指標 (別表第1・別添え1)、健康指標 (別表第2・別添え2)、技術指標 (別表第3・別添え3) を策定し、これにより職員の階級に応じて、現場業務が可能であるか判断している。

(判断基準)

対象職員	体力指標	健康指標	技術指標
消防司令以上	否	要	否
消防司令補	要	要	否
消防士長以下 (消防署勤務)	要	要	要
消防士長以下 (消防署勤務以外)	要	要	否

要：判断指標としている、否：判断指標としていない

(5) 高齢期職員に適した資機材の導入状況

回 答	消防本部数 (N=722)	割合
導入済	62	8.6%
導入を検討中	94	13.0%
導入予定はない	566	78.4%

(6) 上記(5)で「導入済」と回答した場合の導入時期について

回 答	消防本部数 (N=62)
令和3年6月以前 (※改正地方公務員法施行以前)	37
令和3年7月～令和5年3月	18
令和5年4月以降 (※定年引上げ制度開始以降)	7

(7) 上記(5)で「導入済」と回答した場合の導入している資機材について (以下、一部抜粋)

・電動ストレッチャー	・軽量救助用資機材
・電動アシスト付きホースカー	・軽量電動カッター
・電動チェーンソー	・軽量空気ボンベ
・電動ホースレイヤー	・内径40mmホース
・電動吸管巻き取り装置	・バッテリー式大型油圧救助器具
・電動積載はしご昇降装置	・バッテリー式LED投光器
・自動心臓マッサージ機	・バッテリー式電動ブロワー
・低反発ノズル	・C A F S搭載車両

【問2 高齢期職員の適材適所の配置】

(1) 中長期的なキャリアパスを見据えた人事配置・キャリア形成への取組状況

回 答	消防本部数 (N=722)	割合
取組中	75	10.4%
取組予定	244	33.8%
取組予定はない	403	55.8%

(2) 上記(1)で「取組中」と回答した場合のキャリア形成プランについて(以下、一部抜粋)

- 3～5年以内で必ず部署異動。その際、特別な理由が無い限り、同一課内、同一署所内での異動は認めず、日勤部署と隔日勤務部署への異動を積極的に行う。
- 消防司令補以下の若手・中堅職員で本部各部の勤務を希望する職員と、受け入れ可能な本部各部との間でマッチングを行い、総務、警防、予防のいずれかの部署で原則1ヶ月の勤務に就くような「キャリア形成支援プログラム」を実施。

(3) 現場業務を続けてきた高齢期職員うち、非現場業務を希望する者に対する研修等の実施状況

回 答	消防本部数 (N=722)	割合
取組中	19	2.6%
取組予定	77	10.7%
取組予定はない	626	86.7%

(4) 上記(3)で「取組中」または「取組予定」と回答した場合の実施主体について

回 答	消防本部数 (N=96)	割合
首長部局	8	8.3%
消防部局	72	75.0%
消防学校	1	1.0%
その他 ・職場内OJT(3) ・業務によって首長部局・消防部局がそれぞれ実施(2) ・県市町村職員研修センター(2)	7	7.3%
未定	8	8.3%

【問3 高齢期職員をはじめとする職員が働きやすい職場環境づくり】

(1) 丁寧なコミュニケーション（高齢期職員向け）

「実施」又は「実施予定」と回答	消防本部数 (N=722)	割合
①かつ②かつ③	38	5.3%
①かつ②	174	24.1%
①かつ③	5	0.7%
②かつ③	4	0.6%
①のみ	63	8.7%
②のみ	150	20.8%
③のみ	10	1.4%
いずれも「実施予定なし」と回答	278	38.5%

- ①：高齢期職員を対象とした研修
 ②：定年引上げに伴う高齢期職員への人事面談
 ③：その他の取組

上記① 高齢期職員を対象とした研修 を「実施中」又は「実施予定」と回答した場合の研修内容について【複数回答可】

回 答	消防本部数
定年引上げの制度説明	247
非管理職の心構え	43
後進指導の必要性	44
その他（以下、一部例） ・新しい立場でのコミュニケーションの取り方 ・ワークモチベーション研修 ・キャリアの振り返り、求められる役割の変化、健康づくり、今後のキャリアプラン等の研修 ・組織として高齢期職員に求められる役割 ・高齢期職員の心構え、高齢期に向けての準備について ・これまで養ってきた知識、スキル、職業観などを棚卸し、高齢期職員の働き方に向けて、仕事の型を作り直していくために、具体的な行動計画を立てる。	33

上記① 高齢期職員を対象とした研修 を「実施中」又は「実施予定」と回答した場合の研修時期について【複数回答可】

回 答	消防本部数
60 歳以上	44
55～59 歳	211
50～54 歳	15
年齢にかかわらず、階層別に実施	17

上記② 定年引上げに伴う高齢期職員への人事面談 を「実施中」又は「実施予定」と回答した場合の面談内容について【複数回答可】

回 答	消防本部数
組織として求められる役割	247
個人の知識・経験・技術等を踏まえた期待	44
その他（以下、一部抜粋） ・希望する配属先 ・健康状態 ・仕事の目標 ・配置先の業務内容	33

上記③ その他の取組 で「実施中」又は「実施予定」と回答した場合の具体的な内容について（以下、一部抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> ・定年引上げ制度に関する消防職員用の資料を作成し、対象職員に配布。 ・「定年引き上げに係る組織運営のあり方」についての資料を作成し、高齢期職員との面談時の説明資料として活用。 ・高齢期職員を対象として、60 歳以降の働き方についての希望調査を実施。
--

(2) 丁寧なコミュニケーション（職場内）

「実施」又は「実施予定」と回答	消防本部数（N=722）	割合
①かつ②かつ③	30	4.2%
①かつ②	88	12.2%
①かつ③	2	0.3%
②かつ③	2	0.3%
①のみ	38	5.3%
②のみ	66	9.1%
③のみ	18	2.5%
いずれも「実施予定なし」と回答	478	66.2%

①：高齢期職員を含んだ全職員を対象とした定年引上げに係る職場内研修

②：職場内での定年引上げに係る話し合いの機会の設定

③：その他の取組

上記① 高齢期職員を含んだ全職員を対象とした定年引上げに係る職場内研修 を「実施中」又は「実施予定」と回答した場合の研修内容について（以下、一部抜粋）

・ 定年引上げの制度説明	・ 降任先の業務内容
・ 高齢期職員の事故防止対策	・ 体力低下による人事配置の理解
・ 高齢期職員の役割	・ 定員管理計画を含めた全体説明

上記② 職場内での定年引上げに係る話し合いの機会の設定 を「取組中」又は「取組予定」と回答した場合の話し合いの内容について（以下、一部抜粋）

・ 定年引上げに伴う制度の理解
・ 定年引上げ制度の説明と本人の経験から想定される職務内容等について
・ 定年引上げに伴う課題及び改善策
・ 定年引上げとなった職員についてどのような働き方があるか
・ 組織として求められる役割

上記③ その他の取組 を「取組中」又は「取組予定」と回答した場合の具体的な取組について（以下、一部抜粋）

・ 定年引上げ制度の趣旨等の詳細について全職員で共有できるように、パンフレットを庁内HPに掲載している。
・ 定年引上げに関するアンケートを実施（全員に対して周知、回答については任意）。
・ 消防本部の職場体制に関する「現場のあり方検討会」を開催し、そのテーマの1つとして、定年引上げに伴う職域の設定について検討している。

(3) 知識・経験・技術等を活かした役割の設定

回 答	消防本部数 (N=722)	割合
担わせている	221	30.6%
担わせていない	501	69.4%

上記(3)で「担わせている」と回答した場合の具体的な役割について(以下、一部抜粋)

知識の継承	<ul style="list-style-type: none">・災害現場での安全管理研修や救命救急講習における講師・予防業務等の専門知識を要する部署に経験豊富な高齢期職員を配置
経験の継承	<ul style="list-style-type: none">・大隊長経験者を指揮隊へ配置・安全管理、救命救急講習における講師、構成市町や消防団等との窓口となり、消防防災対策担当に従事・自身の失敗談を職場内で情報共有
技術の継承	<ul style="list-style-type: none">・消防ポンプ自動車の機関員の養成・通信指令員の養成・消防艇操船員の養成
その他	<ul style="list-style-type: none">・人事評価項目として「後輩等の指導」を設定

2 定員管理（消防力を維持するために必要な定員見直し）

【問1 ポストの新設（再任用）】

（1）新設状況

回 答	消防本部数 (N=722)	割合
新設済	61	8.4%
新設予定	23	3.2%
新設していない	638	88.4%

（2）上記（1）で「新設済」と回答した場合の新設時期について【複数回答可】

回 答	消防本部数
平成13年3月以前（※再任用制度開始以前）	0
平成13年4月～令和3年5月	37
令和3年6月～令和5年3月（※改正地方公務員法施行以降）	7
令和5年4月以降（※定年引上げ制度開始以降）	20

（3）上記（1）で「新設済」または「新設予定」と回答した場合の具体的なポスト及び担当業務について（以下、一部抜粋）

- ・ 情報管理員（豊富な経験を活かし、指令及び無線等の情報を統制する）
- ・ 指令センター担当員（指令システム更新事業の推進や庁舎管理業務を行う）
- ・ 特命救急担当（日中時間帯の転院搬送を行う）
- ・ 査察専従職員（防火対象物の立入検査、違反処理業務）
- ・ 火災予防広報員（火災予防の広報、訓練に関する業務に従事）
- ・ 防災指導係（各地域で実施する自主防災訓練や救命講習、小学校防災教育等の指導を担当）
- ・ 消防団連携員（消防団に関する業務に従事）
- ・ 職員安全指導員（消防署の安全管理に関する助言や指導を行う）
- ・ 訓練指導員（職員の訓練指導や、特異災害等における指揮支援を行う）
- ・ 施設等整備員（消防庁舎や消防車両、消防資機材等の維持管理を行う）

【問2 ポストの新設（定年引上げ）】

(1) 検討状況

回 答	消防本部数 (N=722)	割合
検討中	159	22.0%
検討予定なし	563	78.0%

(2) 上記(1)で「検討中」と回答した場合の具体的なポスト及び担当業務について（以下、一部抜粋）

- ・ 日勤救急隊、転院搬送分隊長（日勤者による転院搬送を主とした分隊を編成し、予備車等を利用した救急搬送業務を行う）
- ・ 活動支援担当（消防隊の活動補助や安全管理、救急隊員の交替要員として、各種活動を支援）
- ・ 指揮支援隊（指揮統制活動を補助）
- ・ 予防査察指導員（予防技術資格を有する職員が、防火対象物・危険物施設査察員の監督を行う）
- ・ 特任主幹（上司の命を受けて、特に困難な事務を処理し、所属長を補佐）
- ・ 消防団担当（消防団の人事管理や事業進行管理等に関する業務を行う）
- ・ 地域安全推進係（総合防災センターと各消防署との一層の連携を図る）
- ・ 財務資産担当（消防庁舎の維持管理や、職員研修及び講習に関する計画立案を行う）
- ・ 訓練指導係（市民に対する初期消火訓練や救命講習の指導を行う）

別表第1

体力指標の確認要領等

	確認項目	実施要領	最低値	指標
1	立ち幅跳び	(省略)	1 6 5 c m	立ち幅跳び、上体起こし及び20mシャトルランの記録が左欄に示す最低値以上であり、かつ3種目の合計点が15点以上であること。
2	上体起こし		1 6 回	
3	20mシャトルラン		1 5 回	
4	反復横跳び		3 3 回	反復横跳び、握力及び長座体前屈の記録が左欄に示す最低値以上であり、かつ3種目の合計点が、階級が消防司令補の職員については8点以上、消防士長以下の職員については15点以上であること。
5	握力		3 3 k g	
6	長座体前屈		3 1 c m	
7	Fire Visionテスト	別添え1に示すとおりとする。	正答数8個	記録が左欄に示す最低値以上であること。
8	Fireデュアルタスクテスト		装着時間2分12秒 正答数3個	
9	Fire Standupテスト		どちらかの足で立てる	

健康指標の確認要領等

	確認項目	確認グループ	実施要領	目標値	限界値	指標
1	血圧	血圧	令和5年度 に実施される 定期健康診断 又は人間ドッ クの結果を活 用し、確認す る。	最高90～129mmHg 最低79mmHg以下	最高180mmHg 最低110mmHg	下記について、いずれも満たすこと。 ただし、プライベートサポート実施の結果、産業医の意見聴取で現場活動が可能とされた場合はこの限りではないものとする。 1 各確認項目（赤血球、血色素量及びγ-GTPを除く。）において、限界値に達している項目がないこと。 2 各確認項目に関する服薬又は過去の医療機関受診がないこと。 3 各確認項目について、目標値を外れている各確認項目が属する確認グループの該当数が2個以内であること（1個又は2個の場合は改善プログラムを実施すること。）。
2	赤血球	血液		男性4.00～5.70×10 ⁶ /mm ³ 女性3.70～5.00×10 ⁶ /mm ³		
3	血色素量			男性13.1～17.5g/dl 女性11.6～16.0g/dl		
4	中性脂肪	脂質		30～149mg/dl	300mg/dl	
5	空腹時血糖	血糖値		51～99mg/dl	200mg/dl	
6	グリコヘモグロビン (HbA1c)			5.8%以下	10%	
7	GPT (ALT)	肝機能		50IU/l以下	200IU/l	
8	γ-GTP			50IU/l以下		
9	クレアチニン・eGFR	腎機能		60ml/分/1.73m ² 以上 (eGFR)	2.0mg/dl (クレアチニン)	

※ 目標値とは、疾病を予防するために目指すべき数値である。

※ 限界値とは、安全配慮が必須となるレベルの数値である。

※ 9のうちクレアチニンについては、人間ドック受診により数値が判明した者のみ確認する。

※ 健康指標確認の結果を踏まえ、希望者に対してプライベートサポートを実施する。

別表第3

警防技術の確認要領等

	確認項目	実施要領	指標
1	空気呼吸器の取扱い	空気呼吸器の点検等を実施する。	ア 空気ボンベを正しく取り付けることができるか。 イ 手動補給弁及びロックノブの操作を理解しているか。 ウ 面体を正しく着装し、気密確認を確実にできるか。
2	個人装備の着装	防火衣等及び空気呼吸器を着装する。	ア ホック、ファスナー等を確実に閉鎖しているか。 イ 執務服の襟をたて、露出部分をなくしているか。 ウ 空気呼吸器を背負い、面体を着装後、防火マスクを正しく装着できているか。
3	三連はしごの操作	搬送及び伸梯を行う。	ア 諸元、性能及び搬送要領を理解しているか。 イ 伸梯時に掛け金の確認を実施しているか。 ウ 引き綱の結着ができているか。 エ 適正な架梯角度を理解しているか。
4	ホース延長等	ポンプ車から、ノズルを結合した折島田ホース2本分を延長する。 なお、ノズルの保持要領の確認は、努めて水をのせたホースで実施すること。	ア 確実に脇に抱え、延長しているか。 イ 余裕ホースをとり、屈曲を修正しているか。 ウ 放水時のノズルの保持要領は適切か。
5	屋内進入（検索体形）	屋内進入時のチームを編成する。	ア 進入管理者、筒先担当員及びバディシステムを組んだ検索員（チーム）で活動することを理解しているか。 イ 屋内進入時には、信号機能を有した投光器を活用することを理解しているか。 ウ 筒先担当員の退路はホース線とし、検索員の退路は検索ロープであることを理解しているか。

別添え 1

体力指標の確認要領等（消防司令補以下が対象）

既存体力テスト							新規体力テスト		
種目	立ち幅跳び	上体起こし	20m シャトルラン	反復横跳び	握力	長座体前屈	Fire Visionテ スト	Fireデュアル タスクテスト	Fire Standup テスト
最低値 (得点換算後)	165cm以上 (3点)	16回以上 (4点)	15回以上 (2点)	33回以上 (3点)	33kg以上 (2点)	31cm以上 (3点)	8問以上 (満点:20問)	着 装 時 間 2 分 1 2 秒 以 内 か つ 正 答 数 3 個 以 上 (満点:7 個)	ど ち ら か の 足 で 立 て る こ と
指 標	計15点以上			計8点以上					
司令補	計15点以上			計8点以上					
士長 以下				計15点以上					

※最低値を満たせない種目が一つでもあると指標未達となる。

体力測定項目得点表

得点	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20mシャトルラン	立ち幅跳び	得点
10	62kg以上	33回以上	61cm以上	60点以上	95回以上	260cm以上	10
9	58~61	30~32	56~60	57~59	81~94	248~259	9
8	54~57	27~29	51~55	53~56	67~80	236~247	8
7	50~53	24~26	47~50	49~52	54~66	223~235	7
6	47~49	21~23	43~46	45~48	43~53	210~222	6
5	44~46	18~20	38~42	41~44	32~42	195~209	5
4	41~43	15~17	33~37	36~40	24~31	180~194	4
3	37~40	12~14	27~32	31~35	18~23	162~179	3
2	32~36	9~11	21~26	24~30	12~17	143~161	2
1	31kg以下	8回以下	20cm以下	23点以下	11回以下	142cm以下	1

20歳~ 24歳	25歳~ 29歳	30歳~ 34歳	35歳~ 39歳	40歳~ 44歳	45歳~ 49歳	50歳~ 54歳	55歳~ 59歳	60歳~ 64歳	段階
50以上	49以上	49以上	48以上	46以上	43以上	40以上	37以上	33以上	A
44~49	43~48	42~48	41~47	39~45	37~42	33~39	30~36	26~32	B
37~43	36~42	35~41	35~40	33~38	30~36	27~32	24~29	20~25	C
30~36	29~35	28~34	28~34	26~32	23~29	21~26	18~23	15~19	D
29以下	28以下	27以下	27以下	25以下	22以下	20以下	17以下	14以下	E

○ Fire Visionテスト（体力要素：視力、認知機能、動作の素早さ）

4枚のうち1枚だけ異なる写真を瞬時的に見せ、どこが違うか瞬時に回答する

⇒ 正答数（計20問）が多いほど能力が高い

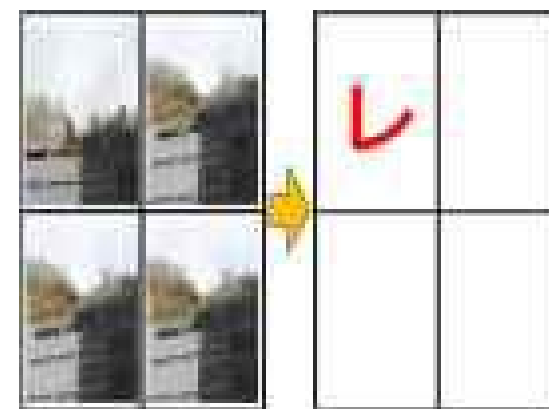


写真1 Fire Visionテスト

○ Fireデュアルタスクテスト（測定能力：聴力、認知機能、バランス感覚）

防火衣を着装しながら指令内容を聴き記憶する

⇒ 着装時間が短いほど、正答数が多いほど能力が高い



写真2 Fire デュアルタスクテスト

○ Fire Standupテスト（体力要素：下半身の筋力、動作の素早さ、バランス感覚）

台(45cm)から片足で立ち上がれるかを評価

⇒ 立ち上がれば能力が高い



写真3 Fire Standupテスト

別添え2

健康指標の確認要領等(全職員が対象)

1 健康指標チェック

確認方法 令和5年度に実施される定期健康診断等の結果を活用

チェック項目

- 就業区分がW1(通常勤務可)である。
- 健康指標基準表で限界値に達している項目がひとつもない。
- 健康指標フローで「優良」又は「可能」に該当している。

全てにチェック → 健康指標結果 「○」
 上記以外 → 健康指標結果 「×」

2 健康指標基準表

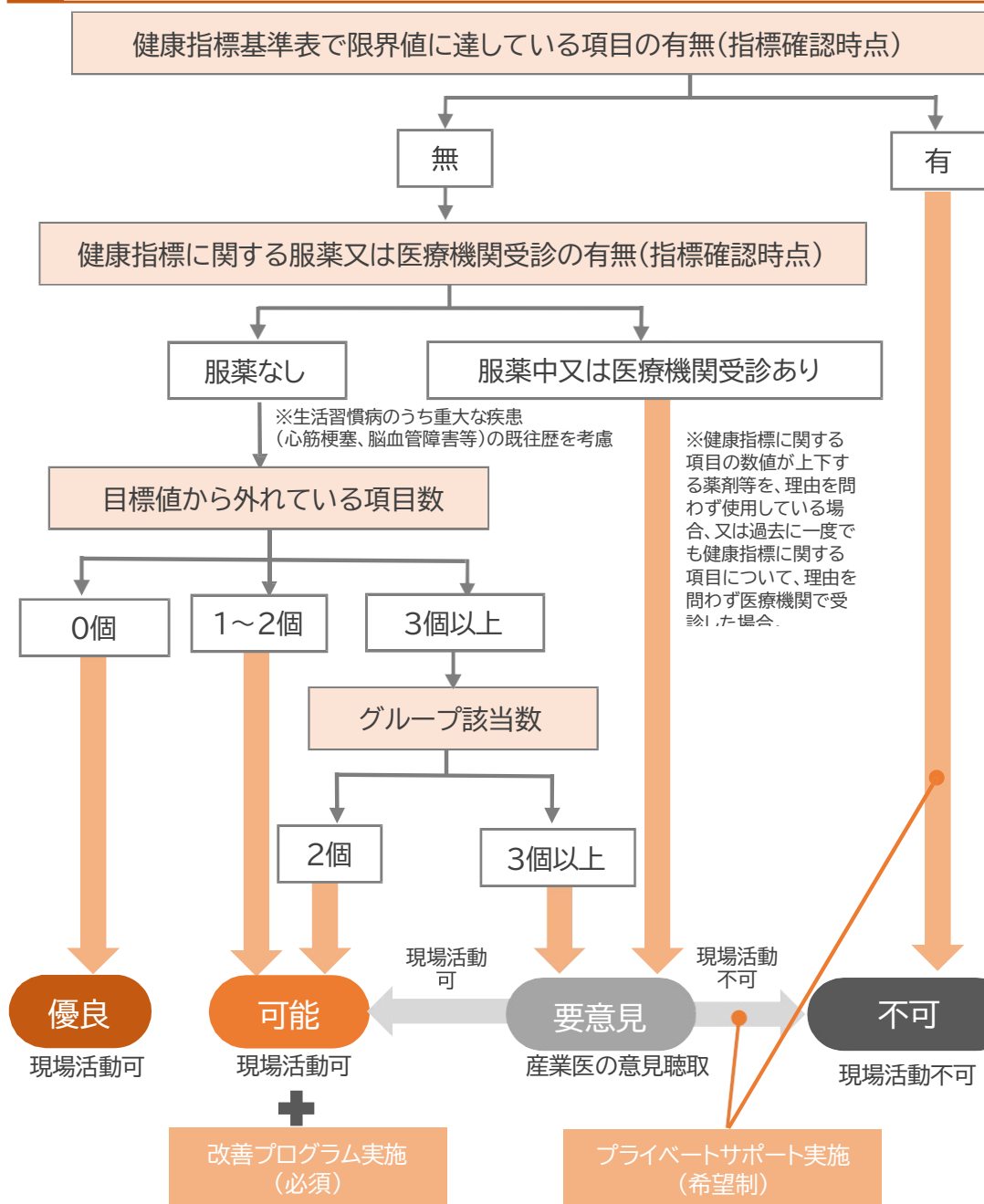
項目	目標値	限界値	【グループ】
血圧	最高 90~129	180	①血圧
	最低 79以下	110	
赤血球	男性 4.00~5.70 女性 3.70~5.00		②血液
血色素量	男性 13.1~17.5 女性 11.6~16.0		
中性脂肪	30~149	300	③脂質
空腹時血糖	51~99	200	
グリコヘモグロビン	5.8以下	10	④血糖値
GPT(ALT)	50以下	200	⑤肝機能
γ-GTP	50以下		
クレアチニン・eGFR	60以上(eGFR)	2.0(クレアチニン)	⑥腎機能

※ 目標値と限界値について

健康指標

目標値	疾病を予防するために目指すべき数値
限界値	安全配慮が必須となるレベルの数値

3 健康指標フロー



【補足資料】健康指標に使用した各健診項目の説明

健康指標に使用する定期健康診断検診項目の選定 (が健康指標として選定する項目)

定期健康診断各検査項目のうち、W1(通常勤務可)に指定されている職員の方がW2・3(現場活動困難)に指定されている職員よりも、数値が良いもの(差が認められるもの)

||

災害現場活動を含む通常勤務が可能かどうかを評価するために必要な項目

定期健康診断各検査項目のうち、W1とW2・3に指定された職員とで数値に変化がなかったもの

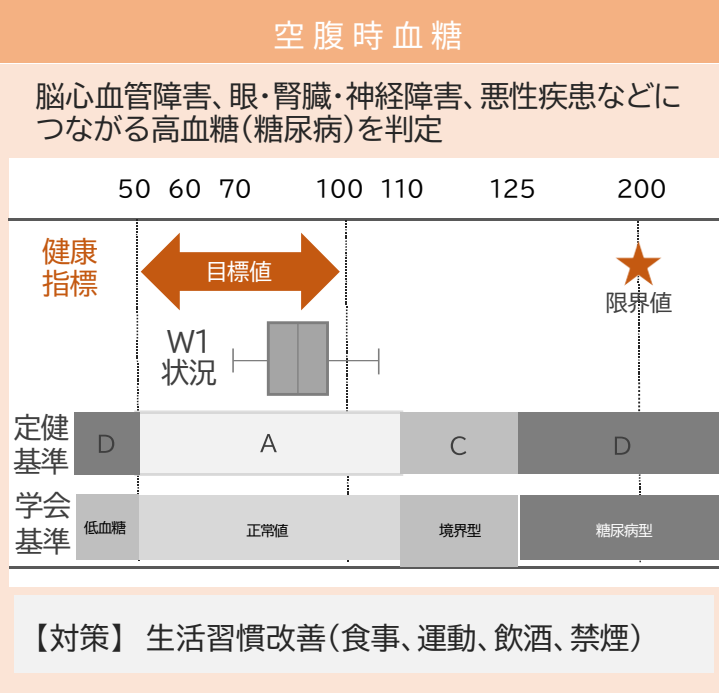
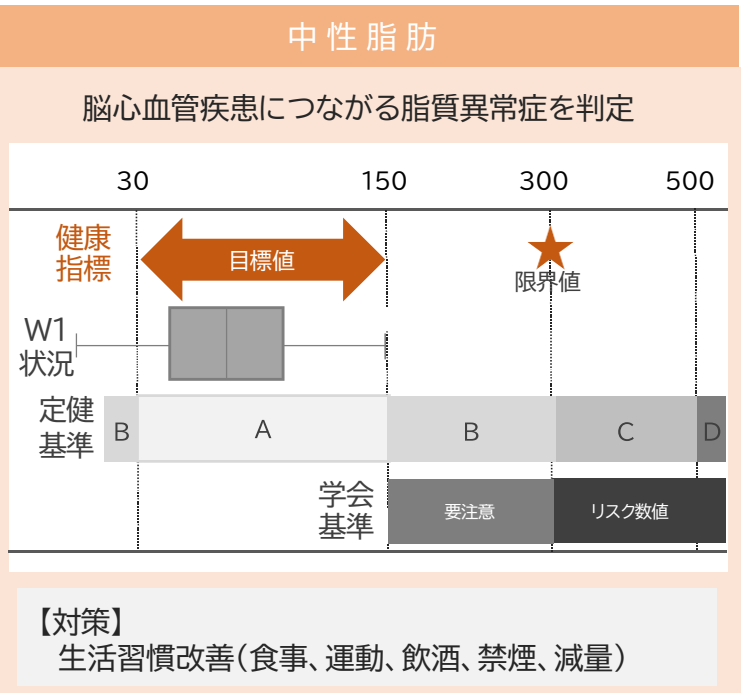
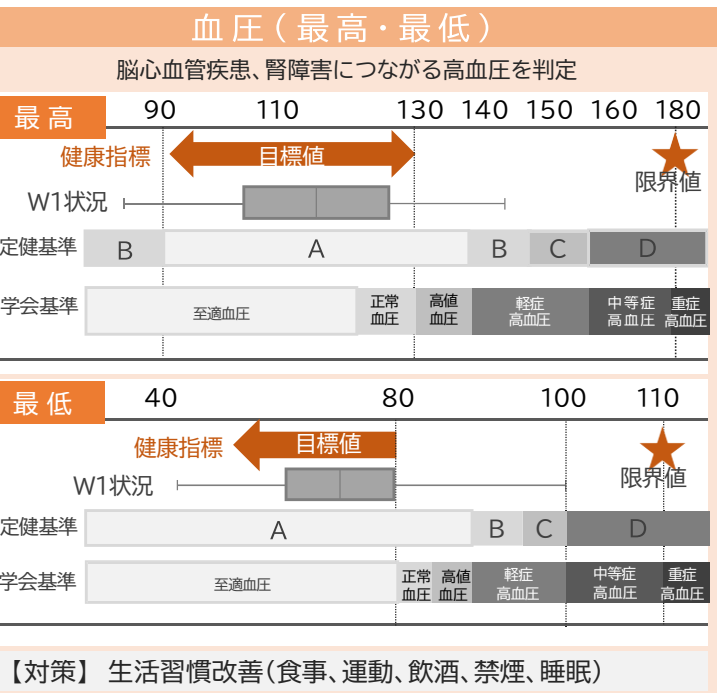
血圧(最高)	血圧(最低)	中性脂肪
空腹時血糖	グリコヘモグロビン	GPT(ALT)
γ-GTP	BMI (※)	

赤血球	血色素量	クレアチニン
LDLコレステロール	HDLコレステロール	白血球
尿酸	GOT(AST)	

※ BMIは、検査項目として数値範囲を超えたら異常であるという性質のものではないことや筋肉量の影響も大きいため健康指標には選定しない。

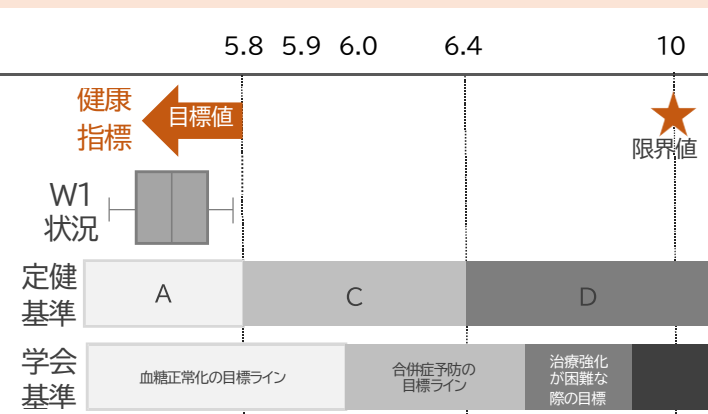
災害現場活動を行う上で健康指標として数値を満たす必要があると考えられる項目(貧血、腎機能低下によるさまざまな症状が現場活動を行う上で大きな支障をきたす可能性がある。)

◆ 健康指標の各項目の概要(数値範囲)



グリコヘモグロビン

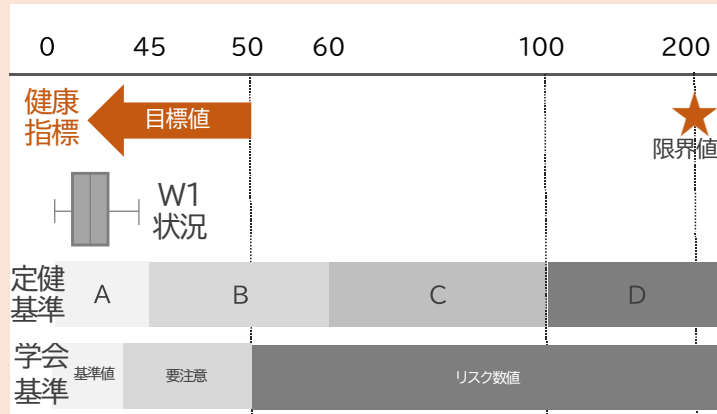
脳心血管障害、眼・腎臓・神経障害、悪性疾患などにつながる高血糖(糖尿病)を判定



【対策】
生活習慣改善(食事、運動、飲酒、禁煙)

GPT(ALT)

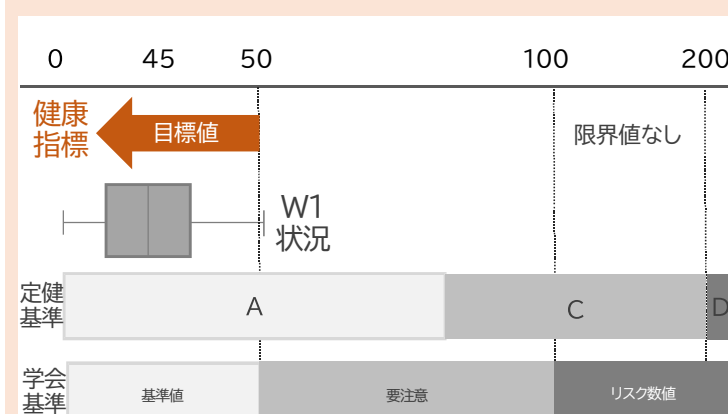
肝臓病(アルコール性肝障害、肝炎、肝硬変、肝がん)につながる肝臓機能の異常を判定



【対策】
生活習慣改善(食事、運動、飲酒)

γ-GTP

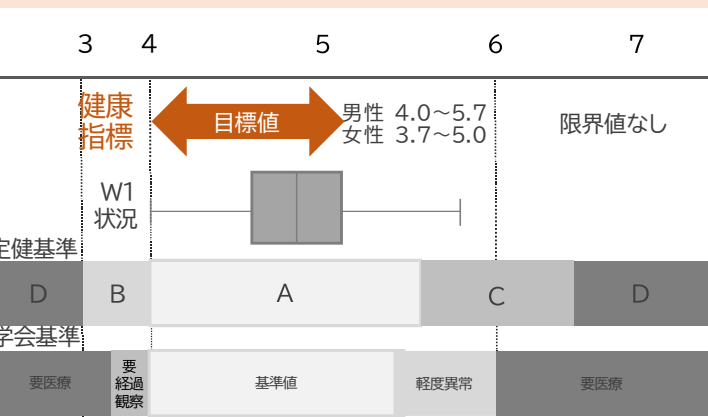
肝臓病(アルコール性肝障害、肝炎、肝硬変、肝がん)につながる肝臓機能の異常を判定



【対策】
生活習慣改善(食事、運動、飲酒、禁煙)

赤血球

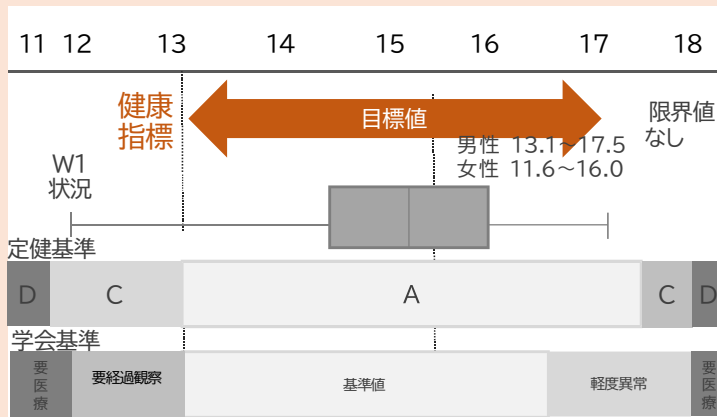
めまいや息切れなどの貧血などを判定



【対策】
生活習慣改善(食事、体重管理、禁煙)

血色素量

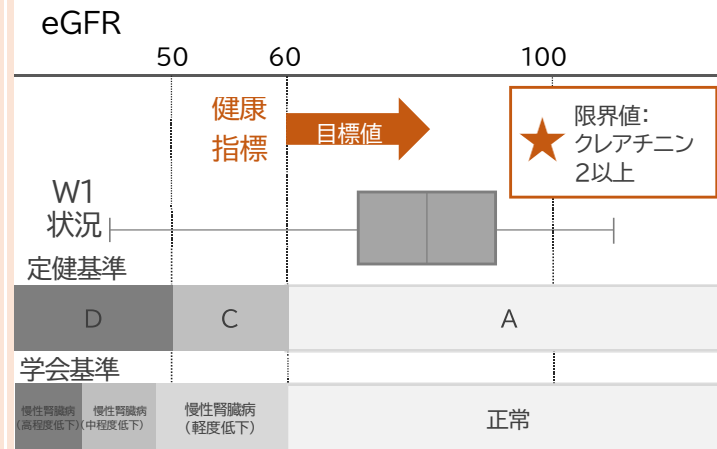
ヘモグロビン(Hb)。めまいや息切れなどの貧血などを判定



【対策】
(貧血の場合)生活習慣改善(食事)、鉄分摂取

クレアチニン・eGFR

腎臓病につながる腎機能の異常を判定
※eGFRはクレアチニン、性別、年齢から算定する。



【対策】
生活習慣改善(食事、運動、飲酒、禁煙、睡眠)

別添え3

技術指標の確認要領等(消防士長以下が対象)

種 別	項 目	内 容
警防	確認対象者	消防士長 （※）以下の階級の消防吏員
	実施方法	次の項目を実技により実施する。 1 空気呼吸器の取扱い 2 個人装備の着装 3 三連はしごの操作 4 ホース延長等 5 屋内進入（検索体形）
救急	確認対象者	消防士長 以下の階級の消防吏員のうち、救急技術に認定されていない職員
	実施方法	次の項目をe-ラーニングにより実施する。 ・傷病者に対する心肺蘇生（AEDを含む。）や止血等に対する処置
予防	確認対象者	消防士長 以下の階級の消防吏員のうち、上級予防技術又は予防技術Ⅰ種に認定されていない職員
	実施方法	次の項目をe-ラーニングにより実施する。 ・小隊立入検査及び各種届出に係る内容

※ 60歳以上の職員が現場活動等が可能であるかを確認する観点から、確認対象者は「消防士長以下」とする。

警防標準技術の実施要領について

下表の5項目について、実技で確認を行う。

	確認項目	実施要領	確認ポイント
1	空気呼吸器の取扱い	空気呼吸器の点検等を実施する。	ア 空気ボンベを正しく取り付けることができるか。 イ 手動補給弁及びロックノブの操作を理解しているか。 ウ 面体を正しく着装し、気密確認を確実にできるか。
2	個人装備の着装	防火衣等及び空気呼吸器を着装する。	ア ホック、ファスナー等を確実に閉鎖しているか。 イ 執務服の襟をたて、露出部分をなくしているか。 ウ 空気呼吸器を背負い、面体を着装後、防火マスクは正しく装着できているか。
3	三連はしごの操作	搬送及び伸梯を行う。	ア 諸元、性能及び搬送要領を理解しているか。 イ 伸梯時に掛け金の確認を実施しているか。 ウ 引き綱の結着ができているか。 エ 適正な架梯角度を理解しているか。
4	ホース延長等	ポンプ車から、ノズルを結合した折島田ホース2本分を延長する。 なお、ノズルの保持要領の確認は、努めて水をのせたホースで実施すること。	ア 確実に脇に抱え、延長しているか。 イ 余裕ホースをとり、屈曲を修正しているか。 ウ 放水時のノズルの保持要領は適切か。
5	屋内進入（検索体形）	屋内進入時のチームを編成する。	ア 進入管理者、筒先担当員及びバディシステムを組んだ検索員（チーム）で活動することを理解しているか。 イ 屋内進入時には、信号機能を有した投光器を活用することを理解しているか。 ウ 筒先担当員の退路はホース線とし、検索員の退路は検索ロープであることを理解しているか。